

日新

苟日新 まこと ひ あら 苟に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 47号

やめ
 にっしん

「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行:魅力あるまちづくり日新 広報部会
 福井市文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日:平成30年(2018年)9月20日

「第2回 日新 ミソハギ花まつり」を終えて

第2回 日新ミソハギ花まつり
 実行委員会事務局 阪井一彦

今年の夏は酷暑で、災害の一つだと言われるくらいに暑い日が続き、福井市でも7月29日には37.7度を記録しました。こうした中で、第2回「日新 ミソハギ花まつり」を8月5日の日曜日に開催しました。当日も37.4度の酷暑にもかかわらず約250人の方々に参加していただき賑やかに「ミソハギ花まつり」を開催できました事お礼申し上げます。

また、実行委員の皆様には6・7月と、長丁場にわたりミソハギの管理作業や底喰川高水敷の清掃美化作業にご尽力いただきありがとうございました。

花まつり実行委員会は6月22日の第一回目の会議を皮切りにまつりの準備を進めてきましたが、7月に入ると連日の猛暑で34~35度を記録するようになり、底喰川高水敷の清掃・美化作業中に熱中症になる方がみられる様になりました。また、各地でイベントを中止するなど、何らかの暑さ対策を実施するところが目立ってきました。

日新地区も急遽7月25日の最終実行委員会にて、暑さ対策とし公民館の屋内で出来る催しものは屋内での実施に切り替える事を決めました。オープニングセレモニー、小学生のミソハギ花写生会、子供のバルンアートコーナー、更にアトラクションの福井コカリナアンサンブルの演奏、藤島高校ジャグリング部、文里子供太鼓、フィナーレを飾るみんなでお楽しみビンゴゲーム大会は屋内で行いました。



まつりには欠かせない焼き鳥は焼き手の方々の暑さを考えて中止、また藤中の吹奏楽の演奏を予定していましたが都合によりできなくなりました。そこで文里子供太鼓に急遽依頼したところ、快く受けていただき、楽しんでいただいたことは良かったと思います。有難うございます。屋外での催物としてはミソハギ花鑑賞ラリー、模擬店の花苗、カキ氷・冷たい飲料水の販売はテントの中で、焼きそばは公民館入り口の北側軒下で調理しました。

今回は新しく三つの催し物を行いました。高水敷に群生したミソハギが赤紫の美しく花をつけた姿を皆さんに観賞していただきたく花鑑賞シールラリー(参加者には日日草の苗を2ポット進呈)を行うも参加者は目標の半分の61名で、子供のミソハギの花写生会を計画し事前に参加者を募集しましたが応募者はたったの7名。この二つは酷暑が影響したのでしょうか。子供バルンアートのコーナーは人気があり親子で楽しんでいただく事が出来ました。夏まつりを屋内での実施は、ややもの足りない感はありました。しかし、まつり当日は37.4度と酷暑でしたが、一人の犠牲者も出すことなく終わることができたことは良かったと思います。



暑い中、ご来場いただいた方々有難うございました。また、ご協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。



8月上旬に、地域のおじいちゃん、おばあちゃんをお迎えしてディホーム交流会を児童館で行いました。子どもたちは、今まで一生懸命に練習してきた『つばさをください』の歌を元気に歌ったり、オカリナで『きらきらぼし』と『ちょうちょ』を演奏したりして、美しい音色がホールいっぱいに響きました。おじいちゃん、おばあちゃんから、たくさんの拍手をいただいた子どもたちはとてもうれしそうでした。その後、2つのチームに分かれて的入れゲームをしたり、「ふるさと」の歌を合唱したりして、おじいちゃん、おばあちゃんから、たくさんの笑顔をいただいた子どもたちは、満足感でいっぱいの様子でした。その他、夏休みには、ドミニカからいらっしゃった方を招いて、ドミニカの子どもたちの遊びを教



いただいたり、英語にふれながらリズムを感じて体を動かすリトミックに挑戦したりしました。また、子どものための防災訓練では非常食を食べたり、簡易担架を作ったりと地域の一員として、助け合うことを学びました。これからも、地域の皆様のご理解とご支援をいただき、子どもたちの興味や関心を広げ、地域を愛し、人のつながりを大切にしていける子どもたちを育成していきたいと思えます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

「福井国体での日新若人の思い」

1週間後に始まる「福井元気国体」で活躍が期待される日新地区に関係のある2人の高校生を紹介します。



まずは、文京5丁目の農口拓弥君（福井工大福井高校3年生）が今年8月に静岡で行われた全国総合体育大会（インターハイ）バドミントン競技大会のダブルスで3位になりました。

福井国体では「絶対勝つ！」と心に刻み挑みます。

また、同じく今年の8月に長野で行われた全国高等学校総合文化祭放送部門のアナウンス部門で福井商業高校の田倉優美さんが審査員特別賞を受賞されました。田倉さんは日新地区の敬老会で一昨年・昨年と司会をつとめて頂きました。国体の総合開会式の司会もつとめます。

「参加者全員にアナウンスで背中を後押ししたい！大会に臨む想いは選手と同じです」と意気込んでいます。



街の文化人



今回は文京5丁目にお住まいのジャズサクソフ奏者の武田幸夫さんをご紹介します。

武田さんは、東京・横浜を中心に「東京キューバンボーイズ」等のバンドに在籍され1981年までプロとして活動されていました。

帰福後は仕事の傍ら、自己のバンドや地元のピックバンドなどで活動を続けておられます。

特に2008年10月から2010年3月まで、毎月1回のペースで29

回続いたアオツサ8階での「ナイトビュー&JAZZライブ」は、毎回200人を越す人が来場し人気を集めました。

また、去年は「乾徳夏祭り」に「武田幸夫カルテット」として演奏されましたのでご存知の方も多いかと思います。

3年前より毎月第2水曜日に「北ノ庄クラシック」で演奏されています。現在も進行形です。是非足を運んでみてください。



第2回ミソハギ花まつりの風景 (8月5日)



第43回敬老会

福井市フェニックスプラザにて

小雨の中にもかかわらず、およそ130名(日新地区の高齢者750名)の方が参加され、福井商業高校放送部の司会進行で始まりました。まずは、来賓の祝辞を頂き、アトラクションへと進みます。

会場に響き渡る文里子供太鼓、全員参加の元気体操、花園幼稚園児の心和ませる可愛い歌、福井童謡の会によるコーラス、少しセクシーなベリーダンス等がありました。最後はドキドキ抽選会が行われ、無事に終了することができました。



福井市から

魅力あるまちづくり日新環境部会に
都市公園等保全美化功労者としての感謝状
贈られる

日新の防災

日新地区自主防災連絡協議会
会長 牧田 孝

最近では地震や津波以外でも、ゲリラ豪雨による浸水・土砂災害で多くの死者がでています。災害はいつ、どこで発生するかわかりません。日新地区でも常日頃から災害に備えるためにも防災訓練は必要と考えます。

9月9日に自治会長・防災役員・防災要員で『避難所運営訓練』を実施しました。災害が発生した時、災害弱者(要支援者、高齢者、身障者、子供達、妊産婦など)はまず避難所に誘導することです。避難所では健常者、防災関係者が避難所運営マニュアルに基づいて避難者をサポートします。このようなことが避難所運営訓練であります。

また、日新の防災訓練としては、総合防災避難訓練、緊急連絡非常招集訓練、防災資機材取扱訓練 AEDの取扱訓練を実施しています。



昨年の10月に福井県土木課へ底喰川北側の低水路に降りるステップの設置と高水敷の土留めの丸太の補修を要望しましたところ、今年ようやく施行されましたので、7月に、そのステップを利用して堤防敷きの壁面のポケットから生え大きく成長したアイビーをカットしました。次に、10月に開催される福井国体会場を飾る花、ペコニアの育成を自治連として受け、環境部会が主になって行いました。しかし、今年は未だかつてない降雨無しの真夏日が1ヶ月も続き幼苗からのペコニア育成には大変苦労しました。「宮崎県ガンバレ!」と書いて何とか支援できるようになりました。3つ目としての8月5日の「第2回ミソハギ花まつり」に間に合うようにとミソハギ管理を行いました。生育旺盛な雑草と猛暑との戦いで大変な作業でした。今年の未だ例のない異常気象のため、敗戦状態にある現状で、皇帝ダリアなどの植え込みものも手当の甲斐なくほとんどが成長しない状態です。

今年になってからの大雪・台風・猛暑などがありました。これからも今年のような気候が続くと思うとゾッとします。環境を壊している人間への地球からの警告ではないかと思えます。



交通部会

新時刻表と新ルートによる運行スタート

今年の夏は観測史上類のない猛暑が続き外出を控える方が多く「さんさんバス」の乗車人数が心配されたこと、8月からのダイヤ修正と一部ルートの変更によって戸惑いがあるのではとの心配がありましたが、結果的に728名の利用者があり目標(570名)の127%を達成することができました。これは住民の皆さまと運営に関わった方々の協力のおかげと感謝しています。交通機関は一度消えると復活することはなかなかできません。今後とも「さんさんバス」をよろしく願いたします。



広報部会

カザフスタンの民謡と語り

イナラ・セリクパエヴァさんと高橋直己さんによる「カザフスタンの民謡と語り」のコンサートを8月18日に開催しました。参加者は36名でしたが、日本ではなかなか聞くことのできないカザフスタンの民族音楽に魅了された90分。その後演奏者との短い交流の中で珍しい楽器(ドンブラ・コブスなど)の説明や触れる時間を楽しんでいました。



ドンブラ



コブス